

千歳より乃ふ——大石は梵文を彫刻して昭
と承和延久元平康永貞和建武正保の
年号皆に埋めて見（傳）承和は人五五
に代 仁明天皇の年号より——て尚宝曆十
年より九百二十三年なり 貞和建武正平の
年号は南朝の年号に 尚武の南帝（属）
より年ハ太平記より詳なり 同書詳判を以
考るに尚武の南朝は隆和——年号ハ五十七
年なり 一書に人五十三代 成務天皇十
一年陽月尚武の年号は 大己貴命少彦名

一朝日山八幡宮

余の二神を参るといふ事あり 海利大賢二
神を以て大己貴命神社と云ふハ大に誤れり
もの之生る所の第創の久——をを認めハ二
神を参るハ所也
一朝日山八幡宮
館の傍より古河氏家朝臣大友征伐の祈
禱に建たる社と云 社に在る九石三斗五升
石一通に面地方生る村別尚延令寺館を
池田隈波落より——後藤氏流川村（近江
を誤地なり）殿に延享年中一大家屋を構